

## 令和6年度 第3回鳴門市スポーツ推進審議会 議事録

- 【日 時】 令和6年11月22日（木） 15時00分～17時00分
- 【場 所】 本庁舎3階 会議室303
- 【議 題】 第2期鳴門市スポーツ推進計画の策定について
- 【出席者】 ①委員11名  
中田委員／片岡委員／佐伯委員／松井委員／大黒委員／矢野委員  
立石委員／神田委員／山本委員／西上委員／堀江委員／佐藤委員
- ②オブザーバー2名  
笹川スポーツ財団 吉田氏、鈴木氏
- ③鳴門市4名（事務局）  
小椋市民生活部長／尾山スポーツ課長／藤本副課長／織田係長
- 【会議概要】 1. 第2期 鳴門市スポーツ推進計画の素案について  
→以下のとおり

---

### 事務局：～議事 第1号 第2期鳴門市スポーツ推進計画の素案について説明～

松井会長：ありがとうございました。それではただいま事務局から説明のありました第2期鳴門市スポーツ推進計画の素案について委員の皆様のご意見を伺いたいと思います。資料が膨大ですので、まずは大枠の目次を見ていただけますか。1、第2期鳴門市スポーツ推進計画とありますが、（1）から（7）までがこのスポーツ推進計画の方針の部分だと思いますので、まずこの大枠についてご意見を伺い、そのあと（8）の具体的な内容についてお願いしたいと思います。まず（1）から（7）の推進計画の基本理念、あるいは大枠としてこれでいいか各委員の皆さんのご意見をお願いします。

F委員：総合型地域スポーツクラブが非常によく出てきますが、活動していて、私も自分のクラブだけではなく、地元のスポーツ関連事業を推進し、営利でされているところの方々の意見を聞き、活性化してもらわないと困るので、総合型地域スポーツクラブだけではなく、民間の力でもっと鳴門に来てもらえるようスポーツ関連サービス事業の支援にも力を入れていただけると良いのではないかと思います。また、具体的な政策の中

にも出てきますが、日本スポーツ協会認証制度というものが始まっています。徳島県は認証制度を取る方向ですが、それは自由です。

民間の方々は本当にプロフェッショナルなので、そこを絶対ここに入れてあげないといけないと思いますし、鳴門のスポーツを盛り上げるというのにすごく力になってくれる人たちだと思います。市内には7つか8つ筋トレジムがありますが、それぞれの住み分けも出来てきて、仲良くしていこうというムードがあるので、ぜひその辺も入れていただけると良いかと思います。

松井会長：昔の形態でいえば個人的にやっている柔道教室・剣道教室なども含まれるし今はトレーニングジムもたくさんあります。そういった事もこの6ページの施策1のスポーツ関連組織への支援の枠に入るという事で、④としてひとつ起こしていただきたいというご意見だと思います。それに関して皆さんはどうでしょうか。

G委員：今、サイクリングなども民間の方々と一緒に入っていますし、そういう点では今後、鳴門市が取り組む施策として、ひとつそこに入ってもいいのではないかと思います。

松井会長：いわゆる商業スポーツの枠に入るとはと思いますが、そういった項目でよろしいですか。

事務局：そうですね。どちらかと言えば地域スポーツ関連事業者です。そこに対する支援といいますか連携して情報共有しながらやれたらと思いますので、スポーツ関連組織への支援と連携みたいな表現として④に追記させていただきます。

F委員：必ず明記してください。総合型地域スポーツクラブだけが特権を持っているのはまずいです。

松井会長：その辺は何と表現するかは事務局で検討して頂いて、民間スポーツ組織でもいいかもしれませんし、行政用語として整理していただきたいと思います。他にありませんか。

松井会長：8ページの施策1②のこども・青少年スポーツ活動の推進箇所のジュニア層のスポーツ活動に関しまして、柔軟性・安定性・バランス運動性4つの機能とは、ジュニアだけではなく、大人を含めた全年齢層に通じることだと思います。ジュニアならではの事になると、一番神経系の発達するコーディネーション系の能力が身につくその時期にやっておかないといけない運動があります。ゴールデンエイジ

と言われますけど、その時期にしっかりと体をコントロール・コーディネートするトレーニングをしていくと、その後色々な種目でその能力をスムーズに発揮できるという事になりますので、ジュニア層ならではの活動を促すようなものが、子ども・青少年のところに入っても良いのではないかと思います。キーワードとしてはやはりコーディネーションとタレント発掘かなと思います。

F 委員：遊びの中でというのを入れた方が良いかもしれません。

松井会長：そうですね。色々な活動を連動的に行うことによってそういうのが身につくと思います。トレーニングセミナーでしているところもあり、そのような事を取り入れたら特にジュニア層のスポーツの機会を作るところでは的を得ているような表現になると思いますのでそれも検討していただけたらと思います。おそらくパブリックコメントでもそのような意見が出てくるかもしれません。

松井会長：それでは具体的に全体についてご意見をお願いできればと思います。

F 委員：先ほど松井先生がおっしゃられた体力運動能力に関しても、ここは体幹バランスというのは必要ないと思います。活動機会の創出に向けた取り組みに関しては、遊びを通じてコーディネーショントレーニングとして取り入れた方が良いでしょうと思います。体幹というのはしているうちに身につくと思います。次に 9 ページのアドバイザーの活用についてですが、アドバイザーが来られて話をされるワークショップなどに出向くことが多いですが、地元スポーツに精通するアドバイザーを入れて欲しいです。ここに長く住んでいるからこそ知っているフィールドのこと等があるので、その辺は業者だとか有名なプロの選手だけではなく、地元の方を活用することも大事だと思います。また、表彰された方などの意見を聞き、どうやって成功したかという経験談を入れていただけるとありがたいと思います。

次に 10 ページです。スポーツボランティアに関してですがスポーツボランティアで何が大切かと言うとマネジメントです。中学、高校ぐらいでスポーツマネジメントの機会を持ってもらえたらいいと思います。例えば昔であればシニアリーダーというのがありましたが、今は少なくなってきたので、教育の中でスポーツや遊びを通じたマネジメントができる練習をやっていただけるとすごくありがたいと思います。

それから 12 ページ④のスポーツボランティアの充実のところも同じです。スポーツマネジメントの教育を中学校ぐらいで何かしていただけると嬉しいと思います。次に 14 ページ総合型クラブの参加利用人数目標ですが、令和 5 年度の数字では少ないと思いますし、目標も少ないです。

中田副会長：少なくとも統計の仕方は継続するべきだと思います。

松井会長：地域総合型の利用人数のデータの取り方を、今の段階で統一しておいた方がいいと思います。

事務局：それでは、それぞれ会員の参加者数と教室の参加者数すべて合わせた数字を出して、令和5年の実績値として入れ直します。そのうえで、先ほど目標値は1.2倍で良いとのご意見がありましたので、令和11年の数値目標を令和5年度の実績数の1.2倍に設定させていただきます。

松井会長：はい。そうしてください。ありがとうございました。

F委員：県スポーツ協会との連携をどこかに入れていただけるとありがたいです。

松井会長：スポーツ協会と書いてしまうと、市のスポーツ協会なのか、県のスポーツ協会なのか、国のスポーツ協会なのかわからないので、頭に全部、市と付けてください。

事務局：連携の追記、修正させていただきます。

松井会長：スポーツ協会の話でいえば、県のスポーツ協会の各競技団体に補助金を四つぐらいの費目を作って分配しています。市のスポーツ協会には、鳴門市からはどういう補助が出ているのですか。

事務局：市のスポーツ協会に対しては、加盟団体の方に、それぞれの活動に応じて補助金を出させていただいております。

松井会長：いくつか費目があるわけではなく、大枠一つですか。

事務局：活動費として出しており、金額の付け方としては、何回大会を実施しているとか、市の事業に協力して頂いているとか、何項目かによる加点方式で補助を行っています。

松井会長：それは市の加盟している各競技団体に対して分配しているのですか。この市のスポーツ協会のそういうことを議論する理事会とか、あるいは委員会とかはあるのですか。

事務局：はい。加盟団体に分配しています。スポーツ協会には理事会があります。

中田副会長：運営補助費なので、強化費とか競技向上費とかではないです。

E委員：実際に、老人福祉会とか、いきいきサロンとかの高齢者のスポーツ活動の支援はあります。代表者がいて活動していますが、その中にスポーツが入っているわけです。サロンの中でいろんな競技をやっているのですが、ニュースポーツ等たくさんの競技をやっています。一番多いのがグラウンドゴルフです。それは協会があって徳島県協会、市協会。その中で各地区の人が代表者になって参加しているという組織になっています。しかし、全部に支援があるわけではないです。たとえばカーリンコンとかカローリングとか囲碁ボールとかいっぱいありますが、今老人会としても活動しないといけないということで、老人会のなかで囲碁ボール大会、グラウンドゴルフ大会をやっています。ほぼ、自分たちが会費を出してやっています。そういう競技について少しでも補助を出してくれたらと思います。場所は幼稚園を教育委員会から借りてやっていますが、まずは経験したことがない人にスポーツを広めることが大事だと思っています。

松井会長：E委員が言われたことは、12 ページの施策2 高齢者スポーツ活動支援の②の部分だと思います。具体的な支援の内容をここに書くかですね。

E委員：これは長寿介護課のいきいきサロンの中ですかということです。  
この間、テレビでバレーボールのボールが大きいのをやっていました。初めての人は皆一緒ですから、そういうのをすれば来ると思います。

F委員：今おっしゃったことが、マネジメントという難しい言葉になりますけど、行政の中に課を横断するようなマネジメントするコーディネーターのようなマネージャーが必要です。今は何をするにも一つ一つ課へ出向いて話をしています。行政の中で繋ぐ人が必要です。これを横断的にマネジメントする人がいたら問題も解決します。

E委員：スポーツの中で資格持っている人がいますが、そういう人を呼んで教えてもらっています。

松井会長：今の両名発言は、多分スポーツ課への注文だと思います。そのマネジメントに関しては、私も前聞いたことありますが、群馬県でそういう事を行政がリーダーシップをとって、うまくコーディネートしていて、それが県外にも広がって、神奈川県がその人をヘッドハンティングして、神奈川県も同じことをやってもらうということで、スポーツ振興が上手くいったというような話を聞いたことありますが、知りませんか。

オブザーバー：まさに我々もそういった事業を進めているところがありまして、今、一緒にやっている宮城県角田市は、スポネット角田っていう一つの組織を作って、そこに事務局が民間企業の指定管理者と総合型クラブの3つが事務局の役割を担っており、会議にはスポーツ協会、総合型クラブ、スポーツ少年団、いわゆるスポーツ関係団体からメンバーとなって角田市のスポーツをどうしていくかという議論をしています。

それに紐づいて、具体的な取り組みをするチームがいくつかあり、乳幼児チームがまさに子供のスポーツというところで、保育園にスポーツ協会が推奨しているアクティブチャイルドプログラムとして出前講座で取り組んだり、部活動チームで地域移行に取り組んだり、あと健康チームはチャレンジデーを行ったり、住民全体のイベントだとか、健康増進というところを取り組んでいただく形で今、角田市と一緒にそういう組織を作って角田市全体のスポーツの方針について、先行して取り組みを進めています。また、別の取り組みとして、アクティブシティ推進事業を行っており、それも同じように自治体の中のスポーツ課を中心にしつつ、健康増進課や介護事業課、子どもの課など課を超えた調整できるポジションを置いています。

松井会長：この推進計画がスムーズにいくように鳴門市役所内でも、スポーツ課の中でそういうマネジメント、コーディネート的な機能を有する部署も必要だと思いますが、要するに推進計画がうまく進むように、行政組織もその都度検討しますというような書き方にすればどうですか。

G委員：コーディネートについては、我々やスポーツ推進委員が、まさしく担う事業であってマネジメントしながら、コーディネーター役で地域と繋げながらいろんな事業を進めていっています。

松井会長：今言っているのは総合型だけじゃなくて、結局高齢者や障がい者も含めて、すべてのスポーツ活動をある程度俯瞰的にみてマネジメントできるようなそういうポジションが欲しいということですね。

A委員：私どもの理念というのは、今言ったようにそういったコーディネート、調整役というのを使命感として活動しておりますので、まさしくそういうところに活用して頂ければと思います。

G委員：実際にスポーツ推進委員がこの前いきいきサロンの大会に行ったときに、今バウンズボールという新しい競技を紹介して進めています。

E委員：各地域の各代表に言っておいたら、広まると思います。

G委員：またそういう相談をしてくれたら、推進委員も我々も協力ができるので、そういう連携がうまくいってなかったのかもわかりません。小学校の方は、今鳴門市で7校放課後にスポーツが入っており、放課後の授業でコーディネーターをやらせてもらっており、小学校はスポーツが盛んに行われているのですが、高齢者の教室はあまりそういうニュースポーツの紹介に行けていなかったです。

E委員：うちはそういうのを調べて、そこの会長に電話して来てもらいます。喜んで来てくれます。会員を増やしたいので。あんまりコストがかかったらダメです。大会はほとんど費用をかけることなく、みんなが楽しめるようにして遊ぶということでやっています。徐々に裾野を広げないとだめなので、参加する人を広めるというのが一番大事だと思います。大会でも、自分から楽しんで、健康で長生きするのが一番大事ですから、いろいろ考えてやっています。

松井会長：A委員がおっしゃっていただいたスポーツ推進委員としての組織もありますので、そことスポーツ課がうまく連携して、市としてのコーディネートがうまくいくような体制づくりを構築しましたと言っても良いかと思いますので、マネジメントが大事という内容も、どこかに含めて書いていただければと思います。

中田副会長：現場でこういう形で話をしながら、市の方も長寿介護課や教育委員会と縦割りになりすぎているところがあるので、担当者や課長同士でお互い連携して情報共有することが大事だと思います。現場の方も結局人だと思うので、協力するとか連携はできる範囲のことをしながら、どこかの課がイニシアチブを取ってコーディネートしていかなくてはいけないのかという気もします。スポーツ課だけではないので、そのあたりを検討していただいて、色んな人の意見を吸い上げて、拡散して共有していただけたらと思います。

松井会長：今の話はどこに入れたらいいですか。

G委員：15 ページの施策1の②の中にスポーツ推進委員会への支援のところ、地域のスポーツ活動全般にわたるコーディネートは、推進員の育成と活動の充実を求めます。とここに入っています。

松井会長：ありますね。

G委員：はい。これがコーディネーターの育成なので、ここで一応入っています。

F 委員：それが機能していないので、機能するようにスポーツ課で計らってください。

松井会長：これをするための予算はついているのですか。

事務局：条例で決まっているのは、推進委員の謝礼ぐらいです。

松井会長：ある程度労務になるので、それをボランティアでやるっていうのもなかなか大変な事なので、ある程度これをするための行政のポジションがいるのではいかという気がします。

事務局：推進委員自体は非常勤公務員なので、条例で報償を決めていて、それを基に年間通して色々な活動をしていただいております。

今の推進委員の活動の中で、老人クラブやいきいきサロンと連携して、例えばニューススポーツを推進していくのかというのを事業の中で入れていただければ問題はないかなと思います。

松井会長：ある程度、鳴門市全体のスポーツを司るヘッドクォーターみたいな機能を持たせればいいのではないのでしょうか。今はあまりにも分散しすぎていて、それぞれが頑張っているけど、結局まとめ上げることが難しいというところがありますので、そこら辺を推進委員さんの方が中心になってうまく調整していただければいいかなと思います。

F 委員：スポーツ推進員は会員だけを見るのではなく、もっと包括的に見ることと、常勤の方がいます。専門家というか、部署としてスポーツ課の中に横断的に活動して頂けるポジションがいると思います。教育委員会にも行けるし、どこにでも色んなところに御用聞きに行かないといけないと思います。それが出来ていないです。

事務局：市役所内での動きはスポーツ課が担うべきことだと思います。地域の方との連携については推進委員等に率先して動いていただきたいと考えています。

F 委員：例えば、県外から来た人から筋トレしたいですと言われたときに、ネットで検索したらというのもありますけど、やっぱりそこは即答できるように、パンフレットでも置いておくとか、そういうことは必要だと思います。

松井会長：いろいろ意見が出ましたが、行政の内容に関してこの委員会が口を出せる権限があるか分かりませんので、この意見は課の方で汲み取っていただいて反映させていただければと思います。

松井会長：他にありませんか。

B委員：小学校の方へたくさん講師の方に来ていただいて、運動遊びを実施しています。特に小学校のスポーツする子としない子の差が激しくて、体育の時間や昼休みとか一日で行う時間がすごく大事になってきます。鳴門教育大学や教育委員会の方に講師として来ていただいて、子供たちが少しでも運動に親しみを持ってもらえるようにしています。施策については体育活動の支援だけになっているので、体操等大会に出る子の支援もしていただいておりますが、やっぱり運動の出来ない子とかがどんどんできる様な支援が必要だと思います。実際やっていたので文章に載せていただいて、いろんな団体と連携を取りながら学校の方もやっています。

ただ、コロナ前と比べると、子どもたちがスポーツへの関わりや、走り方にも影響出てきています。幼稚園、幼児期のことについてはいろいろ書いていただいておりますが、もう少し小学校のことも、こんなことをしてくれているとか、文章にしていだけたらと思いました。

松井会長：それはどっちに記載すればいいですか。8ページの子ども・青少年のところか、もしくは9ページの学齢期のところか、両方かかってくるよね。授業の中では学校だし、家に帰ったら、子ども・青少年ってことになりますね。

G委員：小学校の体育の授業のサポートに行かせてもらっていますが、市のスポーツ課の事業としては成り立っていないです。うちの自主事業として学校に入らせていただいているので、そこが子供の体力の底上げにつながるのではないかと考えています。また、専門の指導者を派遣することで、先生方の体育の授業がより充実するので、そういうのを私はずっとやりたいと思っています。

松井会長：それはスポーツ課じゃなくて、教育委員会との連携ですよ。

B委員：ただ、これはやっぱり載せない方がいいと思います。

G委員：私も教育委員会の方から放課後は行かせていただいていますけど、学校の体育の授業に関しては、うちの自主事業であつたり、県の事業をもらって行かせていただいたりという形です。幼児期の子供の体力づくりは鳴門市はすごく力を入れていて、それは各幼稚園全部回らしてもいい、体力測定も全部させてもらっていますが、小学校は教育委員会だと思います。

松井会長：ちょっと懸念がるのは、あまりスポーツ課が頑張ってしまうと、教育委員会が仕事をしなくなってしまうということがありますので、教育委員会の仕事は教育委員会の仕事としてきちんとやっていただいた方がいいと思います。

G委員：本当は入れて欲しいです。

B委員：支援するということではないかと思います。

コロナが開けて大会を開催するようになり、放課後に子供たちが練習をするようになっているので、子ども達も頑張ってそれに向かって努力し体力も上がっていくので、協力して頂けるのはありがたいです。

E委員：地域で小学校の校長と話をして、年に1～2回は体育の授業で三世代交流の大会をします。ものすごく喜びます。

B委員：撫養小学校でも、三世代交流ということで、地域のお年寄りの方が来てくださり、フラフープを回したり、ボールを投げたり、それはもう子供が喜んで2時間でも飽きることなく体を動かしています。お年寄りの方もいきいきとされて、学校協議会の委員の方からも、あれはすごく良かったという話もありました。

松井会長：引き続き、推進計画について他に意見があればどうぞ。

H委員：13 ページですが、障がい者のスポーツの活動の支援というのがあり、一つ確認したいのですが、文中の「スポーツ協会」とは、田宮にある障がい者プラザの県のスポーツ協会のことですか。

松井会長：そうではないです。市のスポーツ協会です。

H委員：鳴門市のスポーツ協会となると、障がい者スポーツ大会の支援とありますが、今現状でそういう事業の支援を行っている事例はありますか。

G委員：市営球場を使って車椅子ソフトの練習をしていると思いますが、その会場の使用については市からの支援になると思います。

H委員：レクリエーションとかの大会事例はいかがですか。

事務局：昨年度、全国レクリエーション大会が行われ、鳴門市として協力させていただきましたが、障がい者スポーツ大会の実績はありません。

H委員：県のスポーツ協会で新スポの予選のようなことを鳴門市でしていますが、スポーツ課は関係ないですか。

事務局：スポーツ課ではなく、県のレクリエーション協会の方でやっている可能性が高いです。

H委員：スポーツ課から、例えば会場にボランティアに行ったという事例はないですか。

事務局：ないです。

松井会長：確認ですが、鳴門市の障がい者スポーツの行政窓口はスポーツ課ですか。

事務局：スポーツ課と社会福祉課の二つに分かれています。

松井会長：事案によっては、対応する課が分かれるわけですね。

G委員：今のウィングスの車椅子バスケットも車椅子ソフトも全部スポーツ課の協力で行っています。

H委員：野球が好きな障がい者の仲間が野球チームを作ろうということで、主だってNPO法人日本身体障がい者野球連盟に加入するために人数集めています。しかし、高齢化が進んでいるため、若い人を集めようという話が出ていますが、その時に支援学校の生徒たちに声をかけて体験してもらおうとか、そういう話もあり、そこの窓口が定まっていない状況です。

また、レクリエーション大会の支援という事が載っているので機会があればお願いしていただけたらと思っております。

松井会長：おそらく新スポーツ施設は、障がい者対応にもなっているわけです。そこが障がい者スポーツの拠点にもなり得ると思いますので、その際にはどんどん意見を出していただいて、こういう設備じゃないと困るというようなことをどんどん申し入れていただければいいのではないかと思います。

松井会長：文面については、これでよろしいですか。

H委員：スポーツ協会というのが、県のスポーツ協会のイメージを持ててしまいます。

松井会長：先ほども指摘させていただいたように、市スポーツ協会という書き方がいいですね。

H委員：障がい者スポーツに関する窓口についての記載があればいいかと思います。

事務局：計画ですので問い合わせ先を記載するのは控えさせていただければと思います。

松井会長：白熱した議論ありがとうございます。時間もあと少しですので、言っておかないといけないことがあれば、この機会にぜひ発言してください。そうでなければ、意見が色々出ましたので、それを汲み取って調整していただき、市議会の方に提出するということになります。

中田副会長：スポーツボランティアの確認ですが、障がい者スポーツもそうですが、スポーツを運営する方に協力する学生も増えて、スポーツボランティアに行きたい人が結構いると思いますけど、市でそういう希望者をバンクみたいにしてはいますか。

事務局：バンクはしていません。

中田副会長：もう一つ。ボランティアはマイナスになったらダメじゃないですか。ボランティアに行きますと言ったときに、旅費込みの謝金とかの対応はしていますか。結構遠い所から何回も自費でボランティアに来るとなるとボランティアでなくなってしまいますので、それはゼロベースにしないといけないかなと思います。

事務局：イベント等でお世話になる場合は無償が多いです。

中田副会長：そこをまた検討していただきたいと思います。

松井会長：他にご意見ありませんか。それではちょうど良いお時間となりましたので、本日も審議いただいた内容を受けて、当審議会としてのスポーツ推進計画素案を決定することとしますが、少しご意見がありました、文言訂正や若干の調整等につきましては、私と事務局に一任させていただければと思いますがよろしいでしょうか。

全委員：異議なし。

松井会長：それでは本日の議事はすべて終了といたします。

委員の皆様におかれましては長時間にわたる熱心な審議へのご協力誠にありがとうございました。それでは事務局に進行をお返しいたします。

事務局：それでは、事務局より２点ほどご案内させていただきます。まず１点目、今後のスケジュールについてです。本日の審議会冒頭にて松井会長からご案内がありましたとおり、本日の審議会内容を反映させた計画素案を、１２月の市議会にて報告するとともに、パブリックコメントにて市民の皆さんからご意見を伺うことといたします。そこで頂戴したご意見について、修正を加えまして、２月に開催予定の次回第４回審議会にてご審議いただきまして計画案の決定、答申とさせていただきますこととなります。各委員の皆さまには、事務局より日程調整のご連絡をさせていただきますので、どうぞよろしくお願いいたします。続いて２点目、会議録の作成についてです。これまでと同様に、後日、会議録（案）を作成しましたら、各委員の皆さまに送付させていただきますので、内容についてご確認いただき、修正等がございましたら期日までに事務局へご連絡ください。ご連絡がない場合は、修正等がないものとさせていただきますのでご了承ください。また、その他、本日の審議会終了後に何かご意見・ご質問等がございましたら、事務局までご連絡をお願いいたします。事務局からのご案内は以上です。会長をはじめ、委員の皆様には、長時間にわたり熱心なご審議を賜り、誠にありがとうございました。以上をもちまして第３回鳴門市スポーツ推進審議会を終了いたします。本日はありがとうございました。